

# 平成21年度 上小阿仁村立上小阿仁小・中学校 学校評価書(年度)

## A 学校教育目標

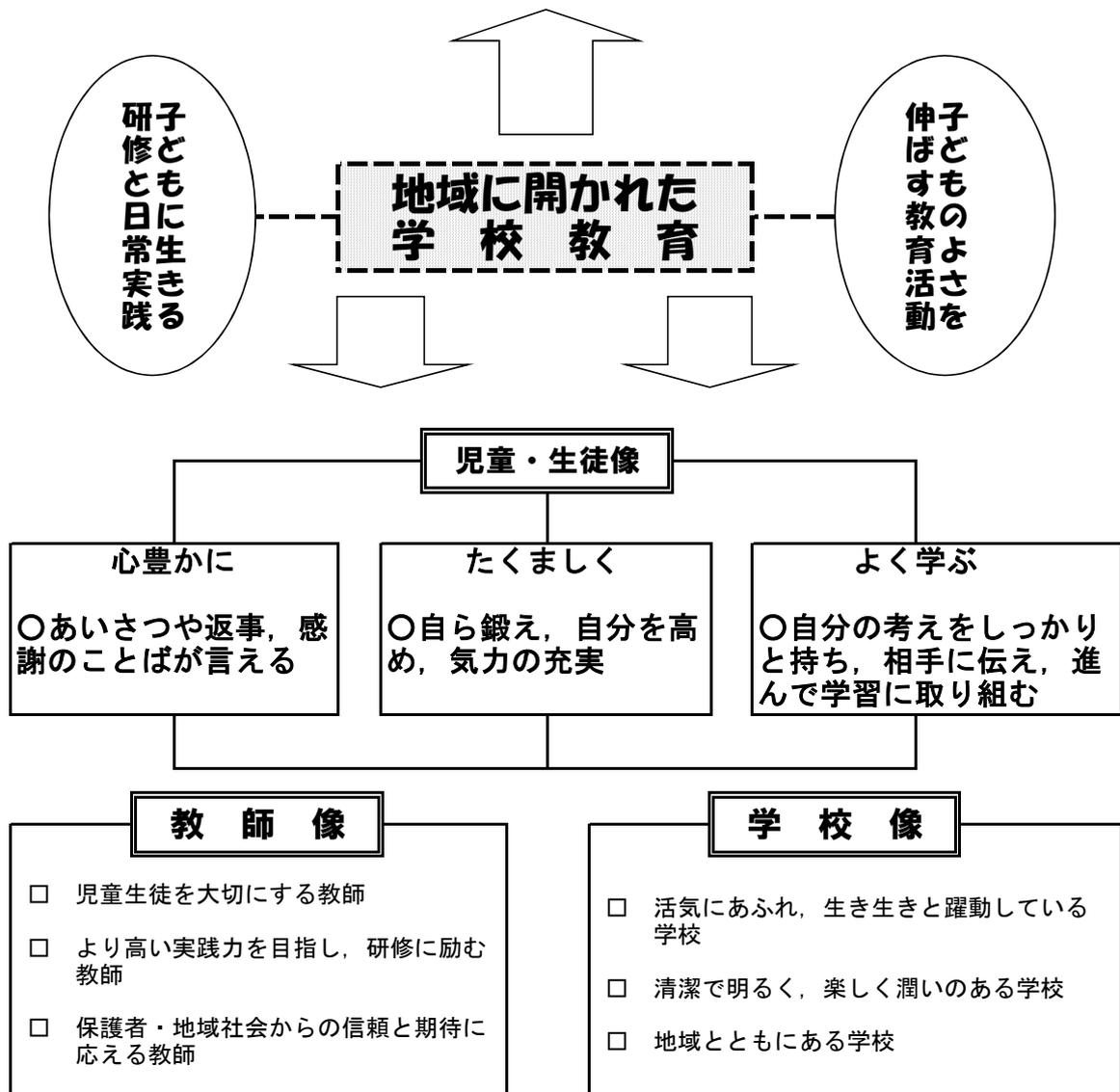
**たくましく うつくしく 未来を拓く**

## B 本年度の重点目標

1. 個に応じた授業を展開し、確かな学力の定着（少人数学習，7年間・9年間プランの活用）
2. 明るく楽しく、安心して生活できる環境づくり（地域素材と人材の活用）
3. 一人一人の個性の伸長（体力づくり，家庭・地域との連携，進路意識の高揚）
4. 主体的な研修を推進し、信頼される教職員としての資質の向上（授業力の向上，確かな学びの実現）

## C 学校経営の特徴

- 小中併設校の特色をいかし、9年間の育ちを見据えた経営
- 学力の向上を目指し、小中一体となった指導・支援の強化
- 家庭や地域と連携した郷土に根ざした特色ある教育活動の推進
- 実践的指導力を高める校内外研修の充実



## ア 児童生徒の状況

### I 自主的・自律的な生活

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
規律ある生活の中で、明るく心のこもったあいさつや返事、感謝のこぼれを言える主体性や責任感をはぐくもうとしている。	前期	おおむね良好	良好	大変良くできているので、このまま継続してよりよくしてほしい。
	年度	おおむね良好	良好	大変良くできているので、このまま継続してよりよくしてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつについては、校内、校外を含めて、良好と評価できる。更に、心のこもったあいさつを目指したい。</li> <li>・生徒は、けじめのある生活を送っている意識しているが、保護者の視点からは不足していると感じている家庭が1/4程度あった。また、4月の全国学力・学習状況調査の質問紙調査で、「家庭での手伝いをしているか」の問いに対して、全国平均に対し小学校-1.2%、中学校-7.1%であった。</li> <li>・集団生活、集団活動については、児童生徒は概ね良好な取り組みと感じているが、教職員の視点では、主体的に取り組めたかという点で課題が残った。</li> <li>→PTAを活用して、家庭での手伝い等について、お互いに情報交換を行い、よりよい方向を探りたい。</li> <li>→学校祭等の行事を中心に、より主体的な児童生徒会活動、学級活動を進めたい。</li> </ul>		
	【年度(→次年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつについては、地域の方々からも高い評価をいただき、良好と評価できる。今後は、小学生の気持ちを高めたい。</li> <li>・けじめのある行動について、中間評価で不足していた保護者が5%上昇した。家庭での協力についても、改善されてきた。</li> <li>・集団生活、集団活動については、児童生徒及び教職員が概ね良好な取り組みと感じている。</li> <li>→あらゆる場で、家庭や地域で手伝い等ができる児童生徒を育てたい。</li> <li>→併設校の特性を生かし、小中学生の関わり合いを大切にし、一層主体的な児童生徒会活動、学級活動を進めたい。</li> </ul>		

### II 思いやりの心・たくましい心

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いのよさを認め合い、思いやりの心やたくましい心、豊かな人間性をはぐくもうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	やや積極性に欠けるので、積極性を伸ばしてほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	やや積極性に欠けるので、積極性を伸ばしてほしい。発表する機会を、学習の場でもっと増やしてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の可能性を引き出す学級経営は、おおむね良好である。学校が楽しいと感じている児童生徒が多い。</li> <li>・小学校では、生き方指導、道徳での心のノートの活用、農園活動に取組の甘さが見られる部分もあったが、体験活動は積極的に充実した学校生活を送れるように努力した。</li> <li>・中学校では、道徳に取組の弱さが見られる面があったが、集会活動や部活動は充実していた。</li> <li>→学校支援地域本部事業のボランティアを活用しながら図書館の整備を進め、児童生徒が活用しやすい図書館経営に努める。</li> <li>→心のノートを活用しながら、道徳の授業の充実を図る。</li> </ul>		
	【年度(→次年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、学級が楽しいと感じている児童生徒が多く、友人関係も良好である。それは教員が、生活ノートなどを通して児童生徒の様子をしっかりと把握しているからだと分析できる。</li> <li>・学校支援地域本部事業のボランティアにより、本の廃棄を含めた学校図書館の整備がなされ、児童生徒が活用しやすい図書(読書)環境が構築できた。小学校の図書コーナーの利用率は非常に高い。</li> <li>・係、班、学級活動の充実は、これで良いという目安を立てる事が難しいが、教職員が厳しい評価をしている割に、児童生徒は充実感を持っている。</li> <li>・感謝の気持ちを持って部活動に臨み、その活動は充実しているが、その成果を日常生活までに生かし切れていない面がある。</li> <li>→学校図書館の有効な活用について、委員会活動とボランティアの連携が必要である。</li> <li>→引き続き、心の教育の充実を図っていきたい。</li> </ul>		

### Ⅲ 健康と体力

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
食や運動を通じて健康や体力への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	このまま継続してほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	このまま継続してほしい。また、村の関係機関とも、更に連携して進めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の結果を家庭に連絡しながら、連携して健康保持に当たっている。う歯なしの児童生徒は少ないが、処置済みの割合は高い。</li> <li>食事の指導については、学年によって好き嫌いも見られるが、メニューの工夫や食事指導を行っている。</li> <li>体力面については、昨年度の新体力テストの結果からも分かるように、現3年、5年生の男子が全国平均より下回っているが、特定の児童について、改善を図る必要がある。</li> <li>→小学校では、業間の時間等を活用しながら、継続的な体力づくりを進めていきたい。</li> </ul>		
	【年度(→次年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食終了後の歯磨きは、習慣化ができており、う歯の未処置率は非常に低い。養護教諭と学級担任が連携して取り組んでいる成果ととらえることができる。また、学校保健委員会を実施したことにより、今後一層の向上が期待できる。</li> <li>工夫した献立で、地場産の食材をふんだんに活用している(H20:52%)が、偏食や食の細い児童がおり家庭と連携した指導が必要である。</li> <li>体位(身長、体重、座高)においては、小3女子と中1女子が全てで全国平均より若干(0.2%~10.6%)、小1男子が体重で1.9%劣っているが、それ以外は全て全国平均を上回っている。</li> <li>新体力テストでは5年男子を除く全学年男女とも全国平均値を上回っている。H20年度に比べ、5年男子は全国比2%改善し、3年男子は92.3%から18.1%も向上した。部活動での活躍は、小中とも全国大会出場者が出るなど、めざましいものがあった。</li> <li>→H22年度、保育園ではフッ化物洗口を実施するが、本校での取り組みが可能か検討が必要である。</li> </ul>		

### Ⅳ 基礎学力

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的学習習慣を身につかせながら、学力を向上させようとしている。	前期	やや不足	おおむね良好	今後も、基礎学力の向上をお願いしたい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	今後も、基礎学力の向上をお願いしたい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>H21.4月の全国学力・学習状況調査において、小6、中3ともに全てのテストで県平均値を上回っていたこと、当該学年のH20.12月実施の県学習状況調査に比べ県平均に対する割合が上昇していたことから、おおむね良好であると言える。</li> <li>教職員は、確かな学びを構築する主体的な学習について、課題があるととらえている。</li> <li>→小中併設校の特色を生かし、教員が兼任して指導にあたっているが、連携を密にし、より質の高い授業を目指したい。</li> </ul>		
	【年度(→次年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>H21.4月の全国学力・学習状況調査において、小6、中3ともに全てのテストで県平均値を上回っていたが、12月実施の県学習状況調査では、中学校2年生以外の全ての学年(小4~中1)で、県平均に対し低い教科があったが、平均ではほぼ全県と同等であった。小6、中1はトータルで昨年よりも向上してきた。</li> <li>兼任による小中の乗り入れ授業は、児童生徒の興味関心を高め、個の伸長に大いに役立った。今後、一層の可能性を模索し、ダイナミックな指導ができる環境を構築していきたい。</li> <li>→少人数学習などを活用し、一人一人の基礎学力の向上にあたりたい。特に算数・数学においては、「あきた型算数・数学の授業 チェックポイント」等を活用しながら、基礎学力の向上を目指す取り組みが必要である。</li> <li>→人前でも自分の考えをしっかりと伝えることができる表現力の育成が必要であり、教科の授業や総合的な学習の時間等の中でその力を高めたい。</li> </ul>		

### イ 学校運営の状況

### V 組織運営

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
教職員が重点目標を意識し、主体的かつ組織的に取り組んでいる。	前期	おおむね良好	おおむね良好	継続して取り組んでほしい。
	年度	良好	良好	継続して取り組んでほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標等、学校経営の方針は、児童生徒及び保護者にも比較的浸透している。</li> <li>組織としての小中連携が、質を伴うレベルには至っていない。</li> <li>→評価が生きる経営に努めたい。</li> </ul>		
	【年度(→次年度)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標等、学校経営の方針は、児童生徒及び保護者に対し一学期以上にも理解されている。</li> <li>特色ある教育課程の編成についても、小中連携が図られ、機能するようになってきた。</li> <li>生徒指導については、迅速な対応がなされ、児童生徒が安心して生活を送れる環境が整っている。</li> <li>→各方面の意見を聴きながら、経営を見直し、常に向上できる環境を構築したい。</li> </ul>		

## VI 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取り組みが理解され、保護者や地域の教育力が生かされている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	継続して、より地域、保護者と密着した連携をお願いする。
	年度	おおむね良好	良好	継続して、より地域、保護者と密着した連携をお願いする。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童生徒の保護者とは、連絡を密にして指導にあたっている。</li> <li>・地域学校支援本部事業により、地域人材の活用が効果的に行われ、教育効果を高めている。</li> <li>・学校のHPが未完成なため、情報発信ができていない。</li> <li>・中学生の地域行事への参加が少ない。</li> <li>→学校のHPについては、今年度中にある程度完成させたい。</li> <li>→学校祭での郷土芸能の発表や村産業祭への参加を通して、中学生の関わりを探りたい。</li> </ul>			
自己評価の概要と学校の改善策	【年度(→次年度)】			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のHPはまだ未完成ではあるが、学校報「みどり」や学年便りにより情報が発信されており、村民の皆様からも大変評価が高い。</li> <li>・地域学校支援本部事業により、地域人材の活用が効果的に行われ、教育効果を高めた。</li> <li>・中学生の地域行事への参加が依然として少ないが、参加できる環境を地域と連携して探っていく必要がある。</li> <li>→学校のHPについては、H22年度の非常勤の緊急雇用により完成させたい。</li> <li>→「チェンジあきた教育プロジェクト事業」等の活用で、地域との連携を図りたい。</li> </ul>			